

1 政策評価票の見方

(1) 政策分野 **A**

平成23年度から10年間の都市経営の基本である「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画 第2期）」（以下「京プラン」といいます。）で示された市全体の総合的な政策体系を構成する27の項目です。

(2) 基本方針 **B**

この政策の実現に向けて今後10年間で取り組む方針として「京プラン」で示された内容を要約しました。

(3) 担当局、共管局 **C**

この政策を担当する局名を記載し、その政策を共管する局がある場合は、その局名を記載しました。

(4) 政策に関係する主な分野別計画等 **D**

この政策に関係する主な計画名等を記載しています。

(5) 客観指標評価

政策と施策の客観指標評価に大きな乖離が生じないように、政策の客観指標評価に施策の客観指標評価を加味し、客観指標総合評価を実施しています。

ア 政策指標評価

この政策の状態を示す客観的な指標について、数値と評価を記載しました。

(7) 各指標の23年度評価値と32年度目標値 **E**

「京プラン」初年度の平成23年度に評価した実績値（平成24年度以降に評価を開始した指標については、平成24年度以降に評価した実績値）を記載しました。

また、「京プラン」の最終年度である平成32年度までに達成すべき目標値を設定している場合は、「32年度目標値」として記載しました。

これらの数値は、毎年度の評価値と併せて進捗状況を見るため、今後も記載します。

(i) 各指標に係る数値 **F**

「前回値」は、「最新値」の1回前の調査等で把握された実績値です。

「最新値」は、今年度の評価対象となる最新の実績値です。評価時点で把握できる最新の年度又は年の数値で、基本的には平成29年度の実績値です。

「目標値」は、今年度の評価において達成すべき目標値です。

「達成度」は、「目標値」に対する「最新値」の達成割合を%で示したものです。

㊦ 各指標の評価 G

それぞれの評価基準に基づき、各指標の評価をa～eの5段階で示しました。

5段階評価の基準や指標の説明など、個々の客観指標の詳細については、「客観指標基礎データ」を御参照ください。

㊩ 政策指標評価の平均評価 H

この政策に係る各指標を平均化した評価結果を記載しました。

《平均化の方法》

- ① 各指標の評価結果をそれぞれ点数化し（a＝4点 ～ e＝0点）、合計する。
- ② 合計点（①）の最高点（4点×指標数）に対する割合を計算する。
- ③ ②の割合により5段階評価
 - a：80%以上 （大変良い状況にある）
 - b：60%以上 80%未満 （やや良い状況にある）
 - c：40%以上 60%未満 （状況は）どちらとも言えない
 - d：20%以上 40%未満 （やや悪い状況にある）
 - e：20%未満 （大変悪い状況にある）

㊫ 施策指標評価 I

政策を構成する施策の客観指標評価結果及び各指標を平均化した評価結果を記載しています。

㊯ 客観指標総合評価 J

政策指標評価に対して、2分の1の割合で施策指標評価を加味した、客観指標総合評価を記載しました。

《客観指標総合評価の方法》

- ① 政策指標評価及び施策指標評価をそれぞれ点数化（a＝4点 ～ e＝0点）
 - ② 政策指標評価：施策指標評価＝1：0.5の割合で合算し、1.5で割り戻して評価値を算出
 - ③ 最高値（a＝4点）に対する評価値の達成度（%）を算出
 - ④ 達成度に応じて5段階評価
 - a＝80%以上
 - b＝60%以上80%未満
 - c＝40%以上60%未満
 - d＝20%以上40%未満
 - e＝20%未満
- （具体例）政策指標の平均評価がd、施策指標の平均評価がaだった場合
- 評価値＝（1点（＝d）×1＋4点（＝a）×0.5）÷1.5＝2.0点
 - 評価値2.0点÷最高値4点×100＝50%＝c評価

(6) 市民生活実感評価 K

市民生活実感調査の結果を受けて、この政策に関する各設問につき a～e の5段階で評価を行ったうえで、各設問の評価結果を総合化し、当該政策の市民生活実感調査全体の評価を a～e の5段階で行います。

《各設問の評価方法》

無作為抽出した市民 3,000 人を対象にアンケートを行い、各設問に対して a:「そう思う」～ e:「そう思わない」から一つ選んで回答していただき、これを点数化して5段階評価(a～e)を行う。

➤点数化の方法

- ① 総回答数のうち、無回答のものを除いて有効回答数とする。
- ② 各回答について点数化し(「そう思う」=2点～「そう思わない」=-2点)、それらの合計を有効回答数で割った合計点とする。

算出例

そう思う	どちらかという と思う	どちらとも 言えない	どちらか という 思わない	そう思わ ない	無回答	総回答	有効 回答
37	93	81	28	20	23	282	259

$$\frac{37 \times 2 + 93 \times 1 + 81 \times 0 + 28 \times (-1) + 20 \times (-2)}{259} = 0.382$$

③ 合計点に応じて5段階評価

- a: 0.8以上 (大変良い状況にある)
- b: 0.3を超え 0.8未満 (やや良い状況にある)
- c: -0.3以上 0.3以下 ((状況は) どちらとも言えない)
- d: -0.8を超え -0.3未満 (やや悪い状況にある)
- e: -0.8以下 (大変悪い状況にある)

算出例の場合 $0.3 < 0.382 < 0.8 \rightarrow$ b 評価

《総合化の方法》

ア(I) 政策指標評価の「平均化の方法」と同じ

(7) 政策の重要度 (27政策における市民の重要度) L

市民生活実感調査において、27の政策分野について、それぞれ重要度を5段階で選んでいただき、選択肢のうち、「重要である」又は「どちらかという重要である」を選じた方の順位と割合を記載しています。

(8) 総合評価 M

客観指標総合評価と市民生活実感調査総合評価を基に、総合的な観点から、政策目的の評価年度における達成状況を５段階で評価、c評価以下の場合は、その原因分析等も併せて記載しました。

《評価区分》

- A：政策の目的が十分に達成されている
- B：政策の目的がかなり達成されている
- C：政策の目的がそこそこ達成されている
- D：政策の目的があまり達成されていない
- E：政策の目的が達成されていない

(9) この政策を構成する施策とその総合評価 N

この政策を実現するための施策をその評価結果と共に記載しました。

(10) 今後の方向性 O

政策の評価結果を受けた今後の方向性について記載しました。

